

- of NOAA's upgraded capability to derive cloud motion satellite winds, *Bull. Amer. Meteor. Soc.*, 72, 372-376.
- Mosher, F. R. and T. Stewart, 1981: Characteristics of water vapor tracked winds, NAVENPERRSCH-FAC Contractor Report, CR 81-06, 52pp.
- Ohshima, T., H. Uchida, T. Hamada, and S. Osano, 1991: A comparison of GMS cloud motion winds with ship-observed winds in typhoon vicinity, *The Geophysical Magazine*, 44, 27-36.
- 大島隆, 1988: 自動算出法の現業用上層風算出システムの適用と算出ベクトルの特性, 気象衛星センター技術報告, 17, 45-62.
- , 1989: 風計算処理, GMS システム更新総合報告 (1989年版), 気象衛星センター技術報告 (特別号II - データ処理編), 85-102.
- 斎藤和雄, 高野功, 1987: マルチセグメントデータによる準総観規模低気圧の下層風, 気象衛星センター技術報告, 15, 67-78.
- Schmetz, J., M. Nuret, O. Turpeinen and B. Mason, 1986: Recent improvements of cloud track winds, Report of the Proceedings 6th METEOSAT Scientific User's Meeting, Amsterdam 25-27 Nov. 1986.
- Stewart, T. R., C. M. Hayden and W. L. Smith, 1985: A note on water-vapor wind tracking using VAS data on McIDAS, *Bull. Amer. Meteor. Soc.*, 66, 1111-1115.
- Suomi, V. E., R. Fox, S. S. Limaye and W. L. Smith, 1983: McIDAS III: A modern interactive data access and analysis system, *J. Climate Appl. Meteor.*, 22, 766-778.
- Szejwach, G., 1982: Determination of semitransparent cirrus cloud temperature from infrared radiances: Application to METEOSAT, *J. Appl. Meteor.*, 21, 384-393.
- 高橋大知, 1981: アースエッジ検出法による VISSR 画像の位置合わせについて, 気象衛星センター技術報告, 3, 55-68.
- Thoss, A., 1991: Cloud motion winds, Validation and impact on numerical weather forecasts, Proceedings of Workshop on Wind Extraction from Operational Meteorological Satellite Data, 17-19 Sept. 1991 Washington, D. C., 105-112.
- Uchida, H., T. Ohshima, T. Hamada and S. Osano, 1991: Low-level cloud motion wind field estimated from GMS short interval images in typhoon vicinity, *The Geophysical Magazine*, 44, 37-50.
- , 1991: Height assignment of GMS high-level cloud motion wind, Proceedings of Workshop on Wind Extraction from Operational Meteorological Satellite Data, 17-19 Sept. 1991 Washington, D. C., 27-32.
- Whitney, L. F., Jr., 1984: Satellite derived products, Winds, NESDIS, Prepared paper for CGMS-XIII.
- Woick, H., 1991: Verification of cloud motion winds, Proceedings of Workshop on Wind Extraction from Operational Meteorological Satellite Data, 17-19 Sept. 1991 Washington, D. C., 127-131.



## 教授公募

東京大学大学院理学系研究科 地球惑星物理学教室

### 1. 公募の対象

- (1) 固体地球物理学を専門とするもの 教授 1名  
 (2) 大気海洋物理学 (主として海洋物理学) を専門とするもの 教授 1名  
 計 2名

### 2. 着任時期

(1) は平成 5 年度内, (2) は平成 6 年 4 月を予定

### 3. 応募書類等

- ・略歴書 (学歴および職歴)
- ・業績目録 (レフェリーのある論文と, それ以外の総説等に分けて下さい)
- ・主要論文 3 編の別刷またはコピー
- ・他薦の場合は推薦状, 自薦の場合は応募者に関する所見を伺うことのできる 2~3 名の方の氏名,

住所等

- ・今後の研究計画・抱負など (自薦の場合, A 4 版 2 枚程度)

### 4. 応募・推薦締切: 平成 5 年 8 月 31 日 (火) 必着

### 5. 書類送付先並びに問い合わせ先

〒113 東京都文京区弥生2-11-16

東京大学大学院理学系研究科

地球惑星物理学教室 主任 浜野 洋三

Tel 03-3812-2111 内線4293

Fax 03-3818-3247

応募書類の封筒には「教授応募」と朱書き, 簡易書留で郵送して下さい。

## 日本気象学会1993年度春季大会の報告

日本気象学会1993年度春季大会は、1993年5月17～19日に気象庁およびKKR竹橋で行われた。参加者数は567名(通常会員426, 学生会員119, 会員外22; なお予約参加者は148)であった。

2日目午後には総会が開かれ、定款の一部改訂が承認された。学会費と藤原賞は、それぞれ2名の会員に授与され、記念講演が行われた。これに引き続き、「メソスケールの気象予測—展望と課題—」をテーマとして大会シンポジウムが行われた。

大会翌日(20日)には、気象庁で2つの研究会(メソ気象および大気海洋相互作用)が開かれた。

発表申込件数は338件(ただしキャンセルが数件)で過去最高であり、300件を超えたのは初めてであった。その内訳は第1種講演が226, 第2種講演が88, ポスターが24件であった。第2種講演として申し込まれた講演のうち、予稿の書き方が第2種の要件を満たさない等の理由でプログラム編成時に第1種に変更された

ものが14件(前回は24件)あった。口頭発表が4会場で行われたため、所定の講演時間を確保することはできたが、講演申込数が今後も増加するならば、講演種目・時間あるいは大会期間などの見直しが避けられないであろう。会員の皆様には大会のあり方についてのご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

今大会事務局として大会準備・運営にご尽力頂いた気象庁予報部の皆様に深く感謝の意を表します。

1993年6月 講演企画委員会

付記:大会プログラム中、座長が以下のように変更された(敬称略)。

- 第1日D会場 海洋・大気相互作用:時岡達志(気研・気候)
- 第3日A会場 雷・シビアストーム:小林文明(防衛大・地球科学)
- 第3日C会場 台風:大西晴夫(気象庁・予報)



## 研究集会「流体における波動現象の数理とその応用」講演募集

平成5年度の京都大学数理解析研究所の共同利用研究計画の一つとして、標記の研究集会が開かれます。

この集会は、流体力学、海洋学、気象学、土木工学、応用数学、物理学などの異なる分野で「流体における波動現象」に関心を持つ研究者に議論の場を提供し、今後の研究の発展の方向を探っていくことを目的とするものです。

次の要領で講演を募集いたしますので、ふるって御応募下さい。

幹事 及川正行, 久保川厚, 船越満明

開催日:平成5年10月27日(水)～29日(金)

会場:京都大学数理解析研究所

講演申込み締切:平成5年9月9日(木)

申込み要領:A4版の用紙に、1)題目、2)講演者氏名、3)所属、4)職名あるいは学年、5)連絡先(電話番号も)、6)要旨(100字程度)、7)旅費希望の有無(御希望に沿えない場合もあります)、を御記入の上お申込み下さい。またOHP以外の使用を希望される方はその旨お書き下さい。

申込み先:〒816 福岡県春日市春日公園6-1

九州大学応用力学研究所 船越 満明  
電話 092 (573) 9611 内線583  
FAX. 092 (575) 1159

- Chichon, Mon. Wea. Rev., 111, 2129-2135.
- Fujita, T., 1985 : The abnormal temperature rises in the lower stratosphere after the 1982 eruption of the volcano El Chichon, Mexico, Papers in Meteor. and Geophys., 36, 47-60.
- Labitzke, K., B. Naujokat and M.P. McCormick, 1983 : Temperature effects on the stratosphere of the April 4, 1982 eruption of El Chichon, Mexico, Geophys. Res. Letters, 10, 24-26.
- Labitzke, K. and M.P. McCormick, 1992 : Stratospheric temperature increases due to Pinatubo aerosols, Geophys. Res. Letters, 19, 207-210.
- Newell, R., 1970 : Stratospheric temperature change from the Mt. Agung volcanic eruption of 1963, J. Atmos. Sci., 27, 977-978.
- Quiroz, R.S., 1983 : The isolation of stratospheric temperature change due to El Chichon volcanic eruption from nonvolcanic signals, J. Geophys. Res. 88, 6773-6780.



## 第3回

## 「基礎研究の振興と工学教育」シンポジウム

—21世紀の工学教育・工学による社会貢献—

日時：平成5年10月4日（月）13：00～18：00  
 場所：建築会館ホール  
 東京都港区芝5-26-20 (☎03-3456-2051)  
 主催：日本工学会  
 共催：日本工学アカデミー/材料連合フォーラム/  
 日本工業教育協会  
 協賛：179学協会  
 後援：文部省/科学技術庁/通商産業省工業技術院/  
 (予定) (社) 経済団体連合会/日本商工会議所/(社)  
 経済同友会/日本経営者団体連盟

—参加申込みについて—

参加費：1,000円（懇親会費を除く）  
 参加申込：往復ハガキに氏名・勤務先・同住所・同電話  
 番号・所属協会名・会員番号を明記し

た上、返信ハガキ表に通信先住所・氏名を必ずご記入下さい。  
 (FAX でのお申込みは受付ません)

懇親会：懇親会参加希望の方は、その旨ハガキに明記して下さい。

申込期日：平成5年9月20日（月）必着

申込先：〒107 東京都港区赤坂9-6-41  
 社団法人日本工学会「10月シンポジウム」係宛

参加証：参加証（返信ハガキ）を順次お送りいたしますので、当日ご持参下さい。

社団法人 日本工学会  
 〒107 東京都港区赤坂9-6-41 乃本坂ビル3階  
 電話 03-3475-4621 FAX 03-3403-1738



## Young Meteorologist Network (ymnet) の紹介

### 1. 背景

ここ数年の学術用ネットワークの発展により電子メールは必須の情報交換手段になりつつある。差出人は出したい時に出すことができ、受取人は読みたい時に読むことができる。電話のように相手の応答がすぐ得られるわけではないが、手紙のように何日もかかることはない。また、内容を紙に印字して残すことができる。国内の連絡はもとより、国外との連絡にも大変便利である。時差をうまく利用すれば、外国の研究者とかなり詳しい議論を毎日することも可能である。

この電子メールシステムにはメールグループという機能がある。これは基本的には1対多の情報伝達手段で、差出人がメールグループのアドレスにメールを送ると、メールグループに登録されているすべてのメンバーに再送付される仕組みである。これを用いて「多対多」の議論をすることができる。

### 2. 目的

メールグループ ymnet はこのような背景の中、1990年6月、気象学会若手の情報交換の場として発足した。しかし、若手に限らず、ネットワークにアクセス可能なら誰でも ymnet メンバーになることができる。

### 3. 参加方法

ymnet のメールアドレスは、

ymnet @ kugi. kyoto-u.ac.jp

であり、(ymnet のメンバーでなくとも)ここにメールを送って ymnet のメンバー全員にメッセージを送ることができる。ymnet に送られたメールを受け取るた

めには自分のアドレスを ymnet に登録する必要がある。登録するには

ymnet-req @ kugi.kyoto-u.ac.jp

にメールを送り意志表示をすればよい。この意志表示メールを受け取り、アドレスの登録を行なう「世話係」は、1993年3月以降京大理学部地球物理教室大学院生の石岡圭一氏が担当している。

ymnet は学術用ネットワークに直接アクセスできなくとも、多少の技術的制限はあるが NIFTY-Serve 等のパソコン通信を利用しての参加が可能である(実際このような登録員も数人いる)。詳しいことは、「ネットワーク相談係」(現在、東大気候システム研究センター助手・山中康裕氏)に照会されたい。

### 4. 現在の状況

設立当初は少なかった ymnet 登録者数も現在では学術用ネットワークの発展に伴い80名を越すほどになった。最近交わされた情報は、「天気」投稿に対する質問・意見、研究に絡んだ質疑応答、各メンバーの修論・卒論のアブストラクトの公開などである。また、「天気」投稿や学会大会に関するアンケートにも利用されており、セミナーの案内、若手会の案内も継続的に行なわれている。

メールグループとしては比較的歴史の古い ymnet であるが、現在会員数が増えてようやく盛り上がりを見せてきた状態であり、これからの発展に期待がかかる。

(京大理 佐藤 薫)



## 温室効果気体に関する国際会議

仙台国際会議場

1994年3月7～11日

東北大学主催

二酸化炭素，メタン，一酸化二窒素，対流圏オゾン，フロン等の温室効果気体の濃度が，産業革命以降，人間活動によって急速に増加しており，近い将来の気候が大きく変化すると懸念されています。この問題にとって，個々の気体の増加原因について定量的な理解を得ることが重要であります。現状の知識は未だ不十分と言わざるを得ません。そこで，地球表層における温室効果気体の循環について多方面から総合的に討議し，解決の糸口を見いだすために，1994年3月7日から11日の期間，仙台において国際会議を開催致します。本会議におきましては，

1. 温室効果気体の濃度および同位体比の時間的・空間的変動の測定と解釈
2. 温室効果気体の発生・消滅過程とその量の推定
3. 温室効果気体の循環モデル
4. 過去および将来における温室効果気体濃度の変化

等について幅広く討議を行ないますので，多数の方のご出席を期待致します。

組織委員会は以下のメンバーによって構成されます。

**委員長：**田中正之（東北大学）

**委員：**松野太郎（東京大学）

岩坂泰信（名古屋大学）

鳥羽良明（東北大学）

福西 浩（東北大学）

近藤純正（東北大学）

富永 健（東京大学）

秋元 肇（東京大学）

中澤高清（東北大学）

山内 恭（国立極地研究所）

本会議にご興味のある方は，至急下記まで連絡ください。よろしくお願いいたします。

〒980仙台市青葉区荒巻字青葉

東北大学理学部大気海洋変動観測研究センター

中澤高清

電話：022-222-1800 内線3588

FAX：022-262-3357